

# ■ 2009年度 入試問題分析シート ■

名古屋大学

前期日程

科目

日本史

総括

試験時間	90分	難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化
満点(配点)	文 200点、情報(社会) 400点	分量(昨年比)	増加	昨年並	減少

## 〈総論〉

例年は図版や史料の内容を読み取らせる問題や、各時代の総合的な知識をまとめさせる問題が多かったが、今年度は少なかった。一方で今年度は個別の知識を説明させる問題が多かった。全体として受験生の努力と実力が如実に反映される出題であった。

## 〈特記事項・トピックス〉

- ・ 昨年より語句記述の問題が減った。
- ・ 今年度は例年出題されている戦後史が出題されていない。
- ・ 問題文の表現などに特定の教科書を参考にしたと思われる問題が見られた。

## 〈合格への学習対策〉

教科書のレベルを超える難問はほとんど出題されていないので、教科書を中心に各時代の内容の理解を深める学習を進めてほしい。また、今年度は少なかったが、例年、図版や史料の読解を求める問題が多くみられるので、普段から意識した学習をおきたい。

## 設問ごとの分析

問題番号	出題形式	分野・テーマ(表題)	特徴(内容分析・解答上のポイント)	問題レベル
I	論述	古代～中世の仏教と国家・民衆のかかわり	行基とその活動、道鏡の権力掌握過程、浄土美術、鎌倉幕府の禅僧対策。	標準
II	論述 記述	中世・近世の職制・身分制	鎌倉府について、中世と近世の寺社、城下町に見られる近世の特徴など。	難
III	論述 記述	A 明治期の思想・教育・美術  B 大正後期から明治初期の外交・思想	自由民権運動、明治期の教育普及、明治期の美術の動向など。  協調外交、浜口内閣の外交、1920年代後半から1930年代後半の思想・文化状況など。	やや難

「問題レベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、問題の難易度を5段階(難・やや難・標準・やや易・易)で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。